



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



当館では展示「社史にみる明治150年」を開催中（9月12日まで）。今に続く老舗企業がどのように明治を迎え、新しい時代に対応していったのか。当館の社史コレクションから明治時代が感じられる文言を抜き出し、紹介しています。今回の社楽はその展示社史の一部をご紹介します。

『松屋発展史』（1935年刊）

当館に所蔵されている社史の中でもかなり古いものです。この社史の中には「本書は古屋家が明治二年横濱に鶴屋呉服店を開いてから銀座の王者株式会社松屋を築き上げる迄の七十年間（略）」という記載

があります。「松屋」といえば現在でも銀座・浅草の松屋百貨店が有名ですが、その発祥の地が横浜であることはあまり知られていません。また、「銀座の王者」という記載からは当時の銀座における松屋の自信や威厳を感じさせる迫力があります。社史後半の第六編では松屋の運動部・文化部が紹介されています。多種多様な部の活動が掲載されており、活発な様子が見えがえます。

『サッポロビール沿革史』（1936年刊）

こちらも古い社史です。当時の様子を掲載した部分を一部わかりやすい言葉に直

してご紹介いたします。「札幌の気候風土が麦酒にあつていてよいものができた。第一回醸造分についてはその大半を東京に送り、宮内省に献上、知名の士に寄贈、新聞に広告を掲載し大いに宣伝した」とあります。今日では全国各地に工場があり、生産が行われている麦酒ですが、当時は特に気候風土が重要だったと感じさせる文章です。

『慶應・明治・大正・昭和そして平成へ 鈴鹿かまぼこの百四十年』（2005年刊）

こちらは小田原に本社を構える「鈴鹿」の社史。明治の中頃を描いた部分に次のような記事があります。「東京という大消費地を（略）交通の近代化という大きな時代の流れのなかから敏感に感じ取った。」

社史にみる明治150年

（裏面へ続く）

(表面から続く)

そして、東京への出荷という夢を抱きながら蒲鉾專業を決意(略)「文明が開化した明治時代においては、柔軟にかつ大胆に経営を進めていくことが成功につながるのだと教えられた気がしました。

『虎屋の五世紀 通史編 伝統と革新の経営』(2003年刊)

こちらもお老舗として有名な「虎屋」の社史をご紹介します。明治後期のお得意様についての記事です。「当時のお客様を知る史料に『大福帳』があるが、残っているのは、明治四十年(一九〇七)以降である。それでも当時を知るには非常に貴重な史料である。」とあり、顧客の一覧も掲載されています。宮家・華族、歴史の教科書で見える偉人から、有名企業・団体や寺社まで、幅広く愛されていたことがうかがえます。また、各節の終わりに書かれているコラムには「虎屋の屋号について」や「虎屋の信仰をめぐる」など、本編に引けを取らない興味深い内容が描かれています。

ここまで当館で開催中の「社史にみる明治150年」の展示の一部を紹介しました。他にも多くの社史について紹介しておりますので、ご来館の際にはぜひご覧ください。今後、出前展示も計画中です。お近くでお見かけの際はぜひ足をお運びください。

(企画情報課 今井)

かながわ明治150年

もっと知ろう! 神奈川

全国の近代化の先駆けとなった神奈川には、明治期の文化、建築物や、当時活躍した人物にまつわる貴重な資料などが数多く残されています。

そこで、本県でも当時の社会状況や本県発展の歴史等を多くの方々に知っていただけるよう、県が所蔵する歴史的資料や美術作品等を活用した特別展の開催、明治維新の舞台となった神奈川の歴史観光を推進するためのシンポジウムやキャンペーン等の企画等、幅広い取組みを進めてまいります。

また、平成29年11月21日に閣議決定された明治記念大磯邸園(仮称)の整備と一部区域の公開に国などと連携して取り組みます。(神奈川県ホームページより)

当館以外でも県内各所で「かながわ明治150年」のイベントや展示が開催されています。この機会に、様々な「明治150年」を堪能してみたいはいかがでしょうか。

かながわ明治150年

検索

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟2F

電話:044-299-7826 FAX:044-322-8878

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>